

9. 人的な事業推進体制の充実

協会は組織経営から事業推進まで幅広い場面に多くの市民が参画している。特に事業推進に直接関与するスタッフを「アソシエーター」(協会=Associationから作った造語)と呼んでおり、2011年度も、ボランティア(のべ318人、実数162人)と有給専従スタッフ(事務局員21人)が協働して事業推進に当たる体制「参加システム」で事業を進めた。具体的には、①個々の事業を企画推進する「チーム」「委員会」「事務局」を核に、②事業部門ごとに「運営委員会」を設け、さらに③経営全般を協議する「常任運営委員会」「財務・基金運営委員会」を開催。④「事務局員」が日常的に事業の“つなぎ役”となる他、⑤年2回、全体合宿(11月の「一泊創出会議」、3月の「事業計画会議」)を開催。アソシエーター全員の協議で事業や組織のあり方を決めるシステムをとり、自治的で開かれた形で運営を進めている。

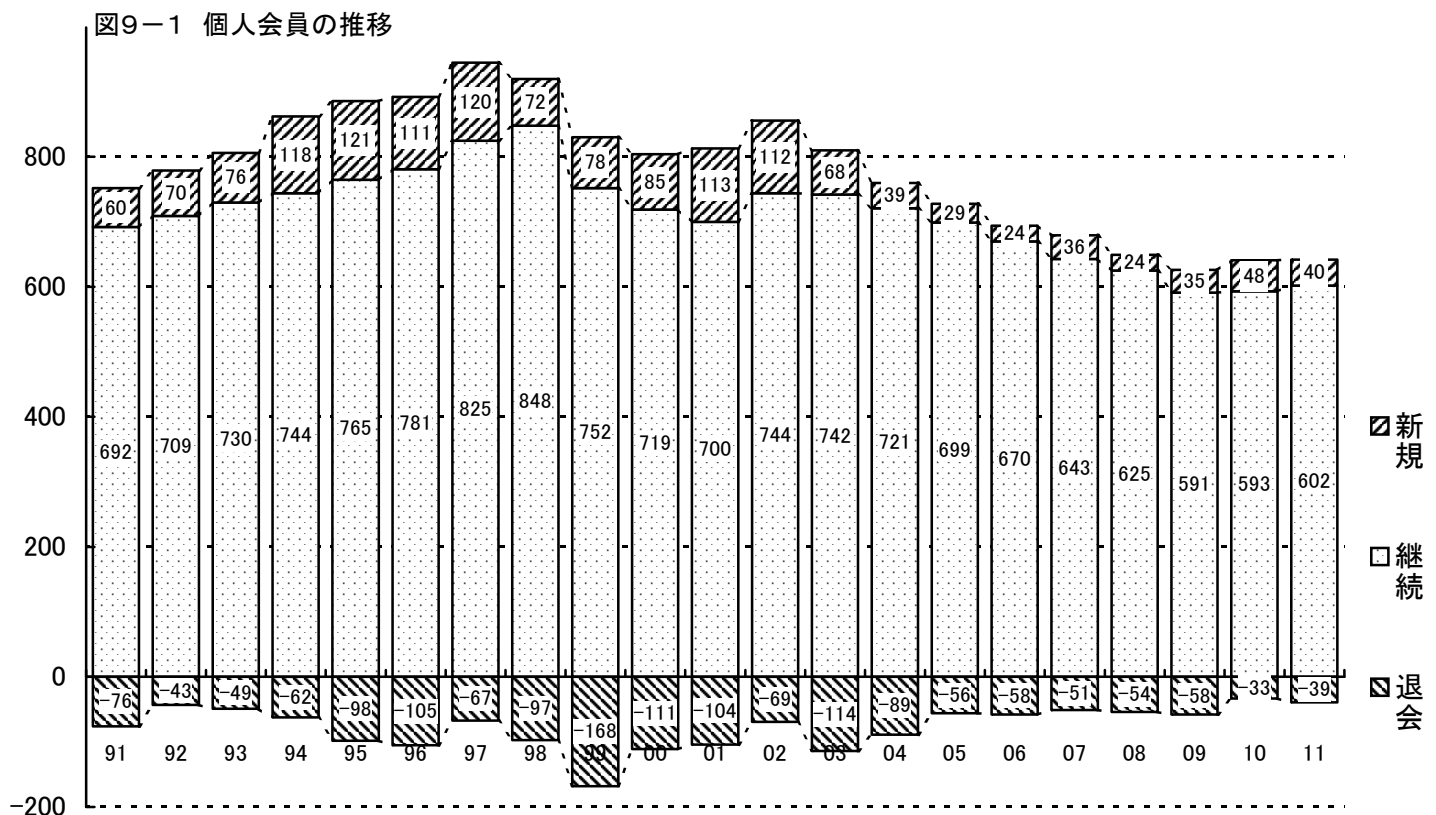
1. 会員の拡大

(1) 会員の現況

協会は、その目的に共感する市民が“個人会員”として事業を支える一方、趣旨に賛同いただいた企業などに“賛助会員”として資金的援助を受けている。2011年度は入退会者がほぼ同数となったため、総数としては前年と同数になった。一方、統合・併合等が続く企業では、ご支援も困難な状態が続いている。非営利団体からは2団体の新規入会があった。なお特別会員は協会創設以来、多額の助成をいただいている(財)皓養社・前理事長 中納久昭氏である。〔下表で()内は昨年度実績〕

表9-1 2011年度の会員の異動状況(カッコ内は前年同期実績)

	2011年4月	新規加入	退 休 会	2012年3月
特 別 会 員	1 人	0 人	0 人	1 人
個 人 会 員	641 (626) 人	40 (48) 人	39 (33) 人	642 (641) 人
(内、生涯会員)	21 人	2 人	0 人	21 人
団体賛助会員(企業)	57 (59) 社	0 (0) 社	0 (2) 社	55 (57) 社
団体賛助会員(非営利)	11 (9) 社	0 (2) 社	0 (0) 社	11 (11) 社
合 計	710 (695)	40 (50)	39 (35)	709 (710)



(2) 会員拡大に向けた努力

① 会員限定通信誌『The ボラ協』の内容

5・6月号	東日本大震災被災地のために／2011年度に向けた事業計画会議／キラリ会員インタビュー「山本晋司さん」
-------	--

7・8月号	2011年度定期総会・被災地支援現地報告会レポート／定期総会報告／関西から！大阪から！東日本大震災・被災地支援のためのコーディネーションPJ／2011年度アソシエーターのご紹介
9・10月号	アソシエーター新人研修レポート／多文化“しゃべり場”オープン／被災地支援を考える学習会
11・12月号	FACEBOOKはじめました／気仙沼レポート／キラリ会員インタビュー「ちょんせいこさん」
1・2月号	2012年こんな初夢見てみたい／2011年度一泊創出会議／大阪ボランティア協会の大忘年会
3・4月号	東日本大震災・紀伊半島大水害～よりそった大阪ボランティア協会の365日／ご寄附の税額控除について／協会の次なる拠点！ご協力をアソviva実施中です

②. 会員コミュニケーションプロジェクトの動き

協会の支援者を増やすため、「会員コミュニケーションチーム」を設置。2011年12月～12年3月に会員拡大キャンペーンを実施し、講座・書籍等の1,000円割引券を特典として、18人の新規入会を得た。

③. 寄付および会費自動納入システムの運営

現在、近畿労働金庫、郵便貯金で、会費等の自動引き落としができ、金融機関に出向かずとも会費を納入できる。11年度末の利用会員は、近畿労働金庫：8人、郵便貯金：31人である。

2. 組織活動

(1) 理事会（第55～58回）の開催

- ①第55回 開催日：2011年5月26日（木）、出席理事：14人（うち書面出席7人）、欠席1人
議案：①2010年度事業報告（案）および決算報告（案）について ②2011年度補正予算（案）と事業計画（案）について ③補欠評議員の選出（議案取下げ） ④役員の変更（案）について ⑤理事長、常務理事の互選について（議案取下げ） ⑥就業規則の改正（案）について
- ②第56回 開催日：2011年7月17日（日）、出席理事：15人（うち書面出席7人）、欠席0人
議案：①理事長の互選（案）について ②常務理事の互選（案）について
- ③第57回 開催日：2011年11月8日（火）、出席理事：15人（うち書面出席8人）、欠席0人
議案：①2011年度上半期事業報告および上半期収支報告について ②下半期事業計画（案）および第2次補正予算（案）について ③理事の一部改選（案）について
- ④第58回 開催日：2012年3月30日（金）、出席理事：13人（うち書面出席5人）、欠席2人
議案：①2012年度事業計画（案）および予算（案）について ②理事の一部改選（案）について

(2) 常任理事会の開催

協会の経営や労務面の課題を日常的に審議し、毎月の常任運営委員会の議案整理と理事会に提案する事項を審議するため、理事長、常務理事、常任運営委員長、事務局長で「常任理事会」を設置。毎月、開催した。

(3) 評議員会（第54～56回）の開催

- ①第54回 開催日：2011年5月26日（木）、出席者：17人、欠席14人
- ②第55回 開催日：2011年11月8日（火）、出席者：20人、欠席11人
- ③第56回 開催日：2012年3月30日（金）、出席者：21人、欠席10人

(4) 監事会の開催

開催日：2011年5月18日（水）、出席監事：3人
内容：「2010年度事業報告・決算報告」に関し、事業・経理・組織運営面の監査を実施した。

(5) 会員総会（2011年度定期総会）の開催

開催日：2011年5月28日（土）
会場：大阪NPOプラザ 3階ホール
出席：322人（うち委任状提出者248人）
内容：1部＝①2010年度事業報告（案）と決算報告（案）、②2011年度事業計画（案）と予算計画（案）、③アソシエーターへの委嘱状交付 2部＝「被災地支援現地報告会」参加者＝51人 報告者：江口

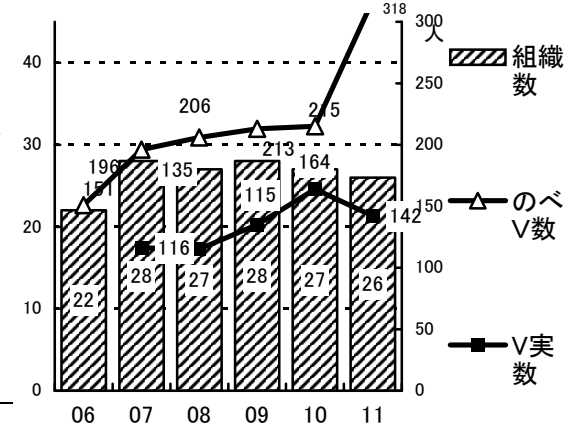
聰氏(しみん基金・KOBÉ)、岩本裕子氏(関西学院大学)、楠正吉氏(積水ハウス(株))、コーディネーター:永井美佳(事務局) 3部=懇親会

3. 市民参加による事業推進

協会事業への市民参加の状況(「参加の場」(チームなどの組織数)と、参加するボランティアののべ人数)を図8-2に示す。

チーム、委員会の数は事業の終了と新設によって同水準になったが、新規事業をスタートさせた結果、アソシエーターのべ338人(昨年度295人)[うち、ボランティアのべ318人(同215人)と増加]、実数は162人(同164人)とほぼ同数であった。

図8-2 事業への市民参加



(1) 一泊創出会議、事業計画会議(アソシエーター総会)の開催

事業活動と組織運営をアソシエーター全員が参加できる場で検討するため2回の合宿を開催した。毎年秋に開催している「一泊創出会議」では、将来ビジョンを受けて、既存事業の総点検を実施。客観的な指標を設定し、事業効果を数値で表現して、今後の事業の方向性を議論した。また、将来ビジョンを受けて、事業の具体化に向けて、その方策を検討した。また、3月に開いた「事業計画会議」では、チーム、委員会、事務局など全事業主体が、それぞれでまとめた11年度の取り組みに対する評価と、12年度の事業計画・予算案を提案。小グループごとに意見交換と質問・評価シートの記入を行うとともに、全体での討議を通じて、事業の質の向上を図っている。その後に関われる理事会・評議員会に提案される事業計画書・予算書は、この合宿を経てまとめられる。このように協会の事業計画立案はボトムアップ型のスタイルとなっている。

- ・一泊創出会議:2011年11月19日(土)~20日(日)、34人参加。【第1部】「ボラ協から届ける東北被災地復興支援を考えよう」【第2部】「現事業の収益性を再構築しよう」【第3部】「新規事業祖創出しよう」
- ・事業計画会議:2012年3月19日(土)~20日(日)まで、38人が参加。昨年度に引き続き、センター別に事業ごとに5分のプレゼンテーションを実施し意見交換。

(2) 常任運営委員会(委員長 延岡 敏也、委員V13人、職員4人)

協会事業全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として組織している。2011年度は、毎月の定例の会議に加え、震災対応や拠点のことを検討するにあたって、4月に2回、9月に一回の臨時の会議も開催した。なお、委員でない事務局員も発言可能なオブザーバーとして参加している。(定例日 原則第4火曜、午後7~9時、大阪NPOプラザ)

<委員> 延岡敏也(委員長)、井上小太郎、今村澄子(以上、副委員長)、岡本雄二、久保友美、小林義彦、筒井のり子、名賀 亨、西江孝枝、増田宏幸、村岡正司、早瀬 昇、水谷 綾、永井美佳、岡村こず恵

<主な協議内容> 東日本大震災での被災地支援のあり方について、「定期総会」の持ち方、理事・評議員・常任等の他組織委員への就任について、ONP以降の拠点問題、気仙沼における被災地支援と今後、財政の健全化に向けた検討組織の発足、「一泊創出会議」の持ち方、内閣府「新しい公共支援事業」、紀伊半島水害の支援、ONP1年延長と今後、震災支援3.11の検討、個人会員制度の改編検討、情報戦略委員会設置の検討、50周年事業の検討チームの立ち上げ、常任メンバーのリクルートの検討、「事業計画会議」のプログラム、市VCO事業委託についてなど

(3) 財務・基金運営委員会(委員 V8人+職員3人)

常任運営委員会の諮問機関として、財政運営や基金の管理運営を検討するために設置。年5回開催した。

<ボランティア委員> 井上小太郎、岡本榮一、早瀬 昇、平手清、松井淳太郎、三砂 孝、森田正紀、山元弘久

<事務局委員>水谷 綾、永井 美佳、松下仁美

<主な協議内容> 決算(四半期毎)・予算(+補正予算)・月次収支の確認、基金や積立金の運用にかかる定期預金や公社債の管理、団体賛助会員への対応、財源開発に向けた意見交換など

(4) ボランティア・NPO推進センター運営委員会(委員長・今村澄子、他V9人+職員10人)

協会事業全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として組織している。(隔月程度で不定期、午後7時~9時、福島区野田事務所)

<委員>今村澄子(委員長)、阿部圭宏、石原真弓、川井田祥子、川畑恵子、杉浦 健、谷水美香、西 誠、村岡正司、

<主な協議内容>災害支援に対する対応、新しい公共支援事業の提案の検討、NPO支援事業の骨格と方向性など

・「NPO支援センター向け事業開発部会（KNN世話人会）」の取り組み（委員 V6人+職員2人）

運営委員会のテーマ別部会の一つとして設置。「関西NPO支援センターネットワーク（KNN）」の企画に取り組み、3回の協議を重ねた。

＜ボランティア委員＞ 石原真弓、川畑恵子、坂田慶子、須貝昭子、中村仁美、堀野亘求

（5）【再編】ボランティアコーディネーション推進委員会（委員 V3人+職員3人）

ボランティアを支援する協会内外の専門スタッフの育成と支援、専門性の向上を目的に、2010年度は7回開催、おおむね2時間の協議を重ねた。

＜ボランティア委員＞ 石井祐理子、岩本裕子、南 多恵子

＜主な協議内容＞ 組織再編に伴い、委員会の目的や活動内容の検討、コーディネーター講座を企画、実施した。

（6）企業市民活動推進センター運営委員会（委員長・井上小太郎、V8+職員3人+インターン1人）

企業市民活動推進センターの戦略と事業全般の強化について検討する場として開催。11年度は東日本大震災への企業市民活動からの支援について検討した。

＜ボランティア委員＞ 井上小太郎(委員長)、尾崎 力、楠 正吉、小林義彦、原田京子、平瀬有香、廣田浩一、松井淳太郎

＜主な協議内容＞ 企業による物資支援、企業担当者によるボランティアバスについて、避難者支援（おもてなしプロジェクト）、震災復興応援イベントについて、CRM（コズリレーティドマーケティング）研究会

（7）「ボランティアリズム研究所運営委員会」（委員長・岡本仁宏、他V9人+職員4人）

「ボランティアリズム研究所」のビジョンや運営について検討。11年度は6回開催した。

＜ボランティア委員＞ 所長：岡本榮一、委員長：岡本仁宏、井上小太郎、柏木宏、久保友美、名賀亨、牧口明、守本友美、早瀬昇

＜主な協議内容＞ 研究誌『ボランティアリズム研究』2号の企画／研究チーム「東アジア」企画 など

（8）チーム・専門委員会などの活動

ボランティアスタッフが直接推進している事業は、推進チーム、専門委員会などを組織して企画・運営している。各チーム、専門委員会の名称などは以下のとおりである。

A. 推進チーム（12チーム、ボランティアのべ101人）

- ①. 「自治の学校」運営チーム（チーフ・今村澄子、6+1人。月1回）
- ②. 裁判員ACTチーム（チーフ・川畑恵子、9+2人。月1回）
- ③. NPOのボランティア推進チーム（チーフ・今村澄子、2+1人。月1回）
- ④. ボランティアスタイルチーム（チーフを決めず、20+8人。月2回）
- ⑤. 市民活動サロン「遊学亭」運営チーム（チーフを決めず、4+1人。随時）
- ⑥. 「パレットカフェ」チーム（チーフを決めず、7+1人。随時）
- ⑦. 「Volo（ウォロ）」発送チーム（チーフを決めず、10+1人。月1回）
- ⑧. ITボランティアチーム「むくどり」（チーフ・廣田浩一、15+1人。月1回）
- ⑨. 英語情報発信強化チーム「Eボラ（イーボラ）」（チーフ・岡田 明、5+1人。月1回）
- ⑩. ボランティア・市民活動ライブラリー運営チーム（チーフ・久保友美、8+1人。随時）
- ⑪. 映像製作発信チーム「トライポッド」（チーフ・神吉良輔、9+1人。随時）
- ⑫. 多文化共生推進チーム「カクテル」（チーフ・丸山敏夫、6+1人。月1回）

B. ワーキングチーム（3チーム、ボランティアのべ10人）

- ①. 拠点検討ワーキングチーム（チーフを決めず、3+4人。随時）
- ②. 多文化子育てサロンワーキングチーム（チーフ・藤原麻佐代、2+1人。随時）
- ③. 多文化子育てやさしい日本語ワーキングチーム（チーフ・藤原麻佐代、3+1人。隔月）

C. 専門委員会（9委員会、ボランティアのべ80人）

- ①. 「Volo（ウォロ）」編集委員会（委員長・増田博之、26+2人。月1回）
- ②. 出版委員会（委員長・牧口 明、9+2人。年3回）
- ③. 「ボランティアリズム研究」編集委員会（委員長・岡本仁宏、5+2人。年3回）

- ④. 多文化共生事業委員会(委員長を決めず、4+3人。月1回)
- ⑤. 多文化子育て事業企画運営委員会(チーフを決めず、7+3人。月1回)
- ⑥. 関西NPO会計税務研究会(委員長を決めず、6+1人。随時)
- ⑦. フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム幹事会(委員長を決めず、10+3人。隔月1回)
- ⑧. 「THEボラ協」編集委員会(委員長を決めず、9+1人。隔月1回)
- ⑨. 会員コミュニケーションチーム(チーフを決めず、4+5人、随時)

4. 事務局体制の充実

(1) 職員研修の実施

開催日：2011年8月24日(水) 10時～17時30分 会場：大阪NPOプラザ 参加者：職員14人
 内容：第1部「業務目標評価シート」「ガントチャート」を用いた担当業務の現状評価と今年度目標を発表
 第2部 収益性をもった事業立案とプレゼンテーションを発表・意見交換

(2) 事務局マネージャー会議の設置

事務局運営の円滑化をはかるため、常務理事、事務局長、事務局次長、事務局主幹の4人で、毎月1回開催。事務局体制の検討や職員研修の企画、労務や法人事務、事務局会議での検討事項の整理にあたった。なお、日常的な詳細業務の確認は、事務局長、事務局次長、事務局主幹の3人で、また必要に応じて事務局主任2人を交えた5人で、随時協議を行った。

(3) 2011年度の事務局体制

2011年度に事務局業務に従事した有給スタッフとボランティアは、以下のとおりである。常勤職員12人、非常勤職員9人であり、雇用形態別では正職員10人、嘱託職員3人、アルバイト8人であった(年度途中の退職者・入職者を含む。以下、敬称略)。

※ ボランティアをV、NPO推進センターをNC、大阪NPOプラザをONP、企業市民活動推進センターをCCCと略記

早瀬 昇(常務理事)

【正職員】水谷 綾(事務局長；全事業統括、総務、人事、渉外、常任運営委、VNC委、東日本大震災支援等)、永井美佳(事務局次長；Vコーディネーション、Vスタイル事業、多文化共生事業、大商大委託、岬町委託、パレットカフェ、ONP所長、財務、労務、総務等)、岡村こず恵(事務局主幹；出版事業統括・編集、研究所、東日本大震災支援等等)、江渕桂子(事務局主任；NC事業、パートナー登録、新しい公共支援事業、関西NPO支援センターネットワーク、ONP、阪急阪神助成、会員、ザボラ、むくどり、総務等)、影浦弘司(事務局主任；CCC事業、講師派遣調整、トライポッド、大ガス・積水助成等)、白井恭子(Vコーディネーション、大学VC連絡協議会、自治の学校、遊学亭、Nボラ)、梅田純平(Vコーディネーション、KVネット、語り手講座、会場利用登録、北区事務所、ザボラ、紀伊半島水害支援、カクテル等)、奈良雅美(12月迄：多文化共生事業、真如苑調査等)、金治宏(ウォロ、裁判員ACT、ライブラリー、Eボラ等)、山本佳史(大阪NPO情報ネット、ONP管理業務、庶務等)

【嘱託職員】塩谷邦子(経理、社会保険等)、大谷 隆(真如苑等；1月末から週4日勤務)、松下仁美(総務、常務理事講師派遣調整等、週4日勤務)

【アルバイト】藤本勝代(V募集情報整理、北区事務所会館運営等)、保村美佐江(ONP・北区事務所会館運営)、森本正史(ONP会館運営)、畑田 貢(大阪NPO情報ネットデータ整理、ONP会館運営)、山下輝夫(ONP・北区事務所会館運営)、山田美樹(12月迄：ONP会館運営)、岡村豊子(出版販売、北区事務所会館運営)、牧口 明(ライブラリー整備)

【ボランティア】

【事務局支援(新聞切抜支援)】平手 清

【事務局支援(被災地後方支援)】今村澄子、楠 正吉、谷水美香、東瀬治雄、華房ひろ子、藤原正規、藤原麻佐代、山根川百香

【ウォロ(volo)】朝井翔二(『volo』のカット作成)、川畑恵子(校正)、元・久の会、トミの会、岡本佳子、岸田和弘、友金英治、中野伊津子、深野久雄、福満奈都、吉中広子(以上、『volo』の発送支援)。

【ザ・ボラ協】森山 孝、畑田 貢(『ザ・ボラ協』校正)。

この他にも日常的に多くの方々にボランティアとして事務局業務にご協力いただきました。ありがとうございます。